

# E 広々ダイニングのある暮らし

## コンセプト

明るく開放的な空間と会話が弾む食事シーンで自宅での“オフ”の時間を楽しむ住戸を計画する。  
働き方の変化などで増えた自宅での暮らしと家族との時間を快適かつ楽しいものを目指す。

## ターゲット

### ■居住者像

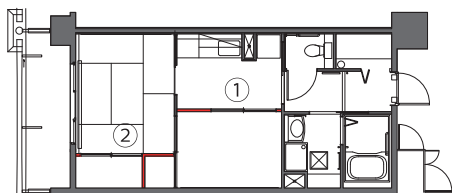
共働き夫婦の2人世帯（20代後半～30代想定）  
休日をゆっくり過ごしたいというニーズを想定

### ■暮らし方

オン：平日は同じ時間に出勤し、20時頃帰宅する。  
2人とも週に1回程度在宅勤務を行うことがあり、その日は起床時間は異なる。

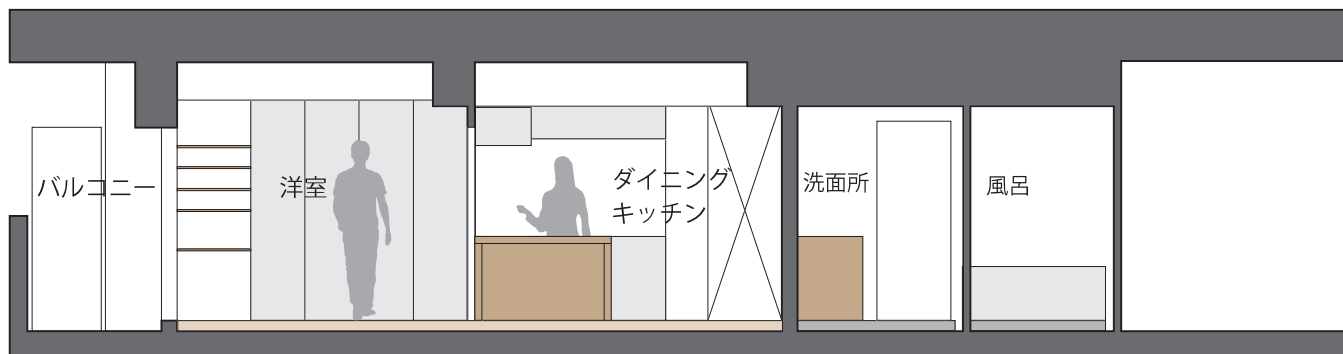
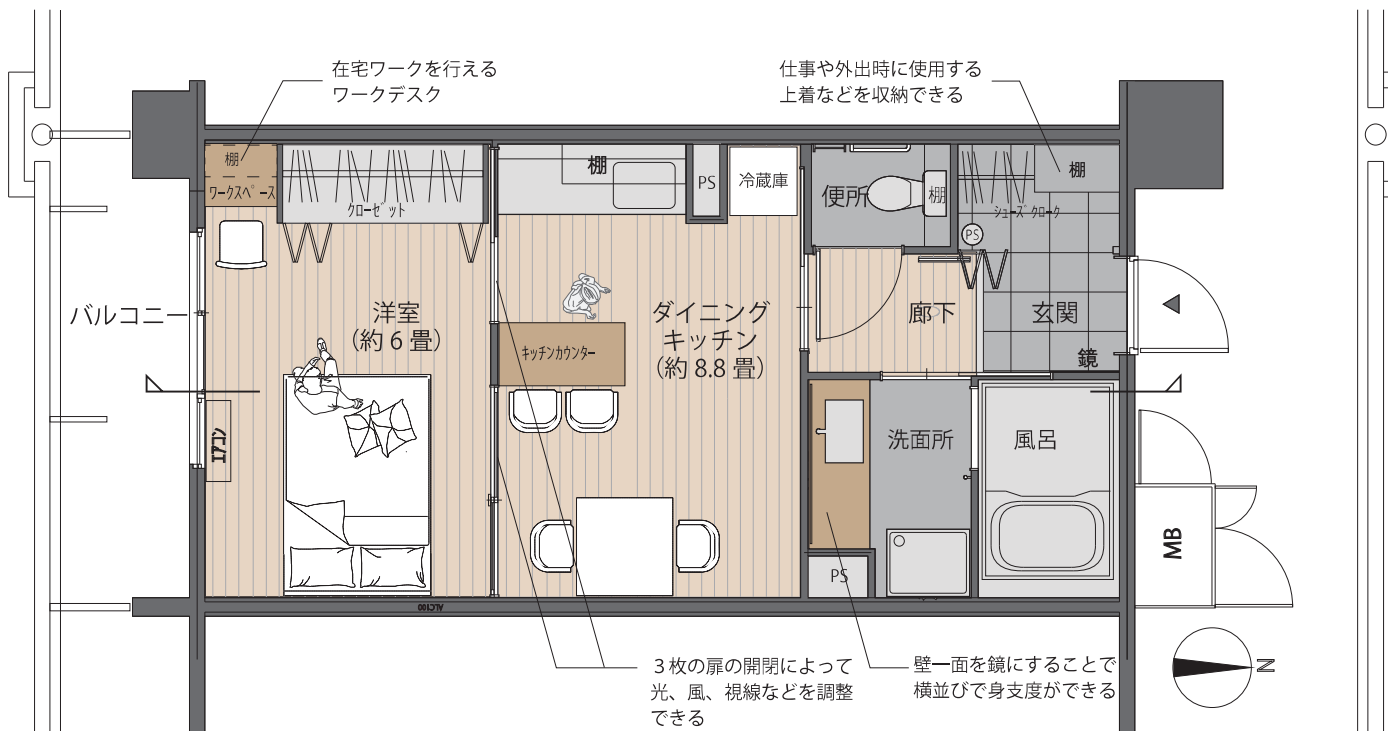
オフ：2人で晩酌をするのが日課で、休日は家で過ごすことが多く、明るいうちからお酒を飲んでゆっくり過ごす。  
出かける時は車での買い物やドライブでときどき人を招くことがある。

## 改修ポイント



現平面図 S=1/150

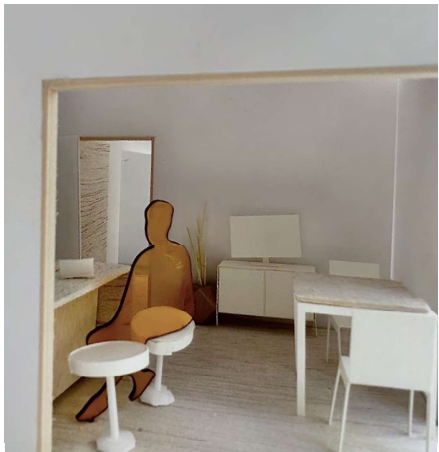
- ①キッチンと現洋室を一体化し、開放的なダイニングキッチンを設ける。
- ②現和室の収納場所を変更し、光を多く取り込めるようにする。



## POINT1 風、光、声が通るダイニングキッチン

約9畳のダイニングキッチンは中央の壁をなくし、玄関に網戸をつけることで部屋全体に風が通る。洋室との間仕切りは透過性のある材料を使うことで窓から離れたダイニングにも光を届け、周囲の建物からの視線を遮ったり、来客時に寝室を隠すことができる。中央のキッチンカウンターはキッチン側を収納、ダイニング側をカウンターとすることで複数人で作業をおこなったり、食事やお酒のつまみを待ちながら近くで会話ができる。

▼風が通り抜けるダイニング



▼光を通し、視線を遮る間仕切り



▼食事を待ちながら会話を楽しむ様子



## POINT3 らくらく家事動線

キッチンと収納が同じ動線になったことで、忙しい朝や疲れた日の夜でも洗濯や料理などの家事がスムーズに行えるようになった。キッチン側の扉のみを使用すれば、起床時間が違う日でもベッドの周囲を通らずに家事や身支度することもできる。

▼廊下、キッチン、収納、バルコニーの動線



## POINT2 ぐっすり眠り、しっかり働ける洋室

洋室は以前から収納の位置を変更し、1つの空間で「寝る、働く、身支度する」など様々な行為が混ざらず、快適に行えるようになった。新たに設けたワークスペースは、ダイニングから離れた位置に配置したため、人がいる時でも集中して在宅ワークを行うことができる。

▼2ヶ所からアクセスできる洋室



▼こもって集中できるワークスペース

